

神緑会ニュースレター

第1巻 第1号

発行日 2009年3月1日



目次	ページ
社団法人・同窓会 神緑会理事長挨拶	2
平成21年度事業計画	3
平成21年学術講演会・総会	4, 5
共同研究館・寄付建物竣工 楠地区名称変更	6, 7
医学部附属病院腫瘍センター紹介 神戸神緑会より	8
平成20年忘年会報告 学年委員より	9
医学部クラブ紹介	10
詐欺まがい電話に注意 物故会員一覧	11
編集後記	12

社団法人、同窓会 神緑会理事長挨拶とnewsletterの創刊

46年卒 前田盛

昨年6月に理事長に選出されました。医療崩壊とも呼ばれる厳しい医療環境の中、皆さんにおかれましては各分野でご努力の真最中かと思えます。神緑会と致しましても、公益法人制度の改正に伴う対応、名簿における比較的若い世代での住所欄の空欄問題や昭和19年の大学発足以来、65年が経過し、幅広い世代の結集といった難しい問題があります。しかしながら、神戸大学医学部はグローバルCOEにおいて、慶応大学と神戸大学のみが生命科学と医学各分野で採択されたすばらしい成果など着実に発展しています。60周年記念事業として取り組んだ共同研究館の全面改修と耐震化、寄附建物の昨年11月の完成は、神緑会諸先生のご協力によるものであります。難問は多いものの、諸先生のご協力の下、神緑会、ひいては兵庫県における医療の充実に取り組んで参りますのでご支援をお願いします。

神戸大学医学部医学科の卒業生は、自動的に同窓会神緑会の会員となります。入学時に3万円を納入した学生は卒業時に社団法人神緑会の会員となり、毎年5千円の会費の納入が必要になります。社団法人神緑会が、学術誌の発行や学生の海外派遣の援助や研究の助成事業などを行ってきました。名簿の発行は同窓会として行い、役員は、同窓会及び社団法人を兼務してきました。学術誌は、24巻まで発行されていますが、社団法人の最も高い費用を要する活動で、学術的要素を主体に一部を同窓会活動（クラス会報告など）の内容として取り組んできました。



しかしながら、社団法人としての制約を守る中で硬直化し、しかも毎年一回の発行では、「神緑会は何をしているのか解らない」や「自分たちにどんなメリットがあるのか解らない」などの不満がありました。若手の活動への参加を促す為や神緑会の活動の理解には、学術誌と別にnewsletterを毎年3回ぐらい発行し、身近な問題などを取り上げてはどうかという事になりました。企画・広報委員会（吉田 優 副理事長で委員長、平成4年卒）の中に、newsletter発行委員会を組織しました。クラブ活動や西医体の成績なども迅速にお知らせして皆様の読む気持ちを引き出したいと考えています。内容への要望などお寄せ下さい。

平成21年度 社団法人神緑会 事業計画

1) 地域における疾病並びに医療等に関する研究調査 (定款第5条第1号該当事業) (予算総額1,500,000円)

- (1) 脳卒中後のリハビリテーションに関する総合的研究 予算 300,000円
 研究調査班代表者: 神戸健康ライフプラザ・健康科学センター長 岡田安弘
 研究協力者: 小畑好伸(幸生リハビリテーション病院院長)、
 栗原英治(順心病院院長)、島田真一(兵庫医科大学)
- (2) 本邦における日常的マスクギャザリング医療体制の研究 予算 400,000円
 研究調査班代表者: 兵庫医科大学救命救急センター副部長 久保山一敏
 研究協力者: 橋本篤徳、山田太平(兵庫医科大学救命救急センター)
- (3) 我国および周辺アジア諸国におけるヒトバベシア症発生状況調査と地域特有の
 バベシア原虫の性状の比較解析 予算 400,000円
 研究調査班代表者: 神戸大学大学院医学系研究科微生物学分野 斎藤あつ子
 研究協力機関: 神戸大学大学院医学系研究科微生物学分野、県立淡路病院、
 洲本伊月病院、ほか
- (4) 兵庫県におけるE型肝炎感染実態調査 予算 400,000円
 研究調査班代表者: 市立加西病院診療部長兼消化器科部長 北嶋直人
 研究協力者: 三代俊治(東芝病院、厚生労働省E型肝炎研究班班長)、
 東 健、瀬尾靖(神戸大学医学部消化器内科)

2) 学術講演会等の開催(定款第5条第2号該当事業) (予算総額 2,500,000円)

- (1) 理事会の承認に基づき学術講演会を2回以上開催する。 予算 2,500,000円

3) 教育研究・学術交流援助(定款第5条第3号該当事業) (予算総額 2,300,000円)

- (1) 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の医学に関する学術交流基準又は教育・研究活動基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、原則として1件につき500,000円を限度として援助を行う。 予算 1,800,000円
- (2) 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の海外における学会発表基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、原則として1件につき100,000円を限度として援助を行う。 予算 200,000円
- (3) 本会学術委員会の答申に基づき、援助対象となる女性の研究者の中から、別に定める学術奨励賞規定により1名の選考を行い、該当者に対して300,000円を授与する。 予算 300,000円

4) 会誌の発行(定款第5条第4号項該当事業) (予算総額 2,300,000円)

内容については学術誌編集委員会で検討し、充実したものにする。

5) 医学部教員の海外学習に対する援助(定款第5条第5号該当事業) (予算総額 500,000円)

6) 医学部学生の海外交流学習に対する援助(定款第5条第5号該当事業) (予算総額1,000,000円)

平成21年度事業費総額 合計10,100,000円

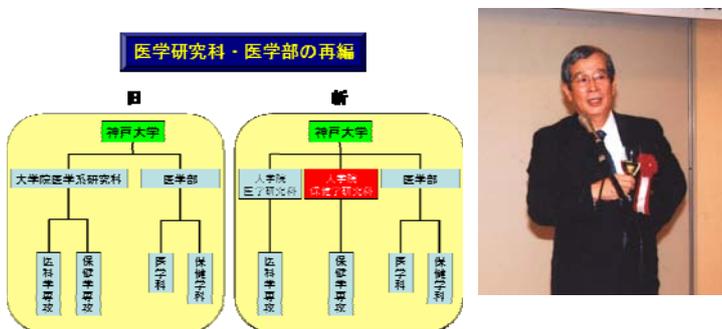
社団法人神緑会 平成21年新春学術講演会・総会

平成21年 1月31日(土)神緑会館にて盛会裡に終了

総会議事が、報告、審議事項共に理事会提案のとおり承認されました。審議事項では、公益法人制度改革に伴う移行先法人の選定について、活発な議論が行われました。平成20年12月から、公益法人制度は改正され、社団法人から特例民法法人となりました。5年以内に、公益法人か一般法人への移行の対応をしないと強制解散となります。不特定多数への公益目的事業をする事に限定されたため、同窓会的目的を有する神緑会は、公益法人への移行が困難と判断されました。社団法人の実現は、創立30周年記念事業として提案、着手され、基本財産の募金活動など涙ぐましい10年間の努力の結果、40周年に相当する昭和59年2月1日に文部省で認可されました。10万円の寄附でその後の年会費を無料とするや当時の同窓会が3万円を終身会費として集めていたのが総てご破算になり、社団法人として発足後は毎年5千円の年会費を徴収する事になり、多くの混乱を引き起こしました。それでも、最近2年間の理事会・評議員会での慎重な検討の結果、公益法人への移行は困難と判断され、満場一致の承認で一般社団法人へ移行するための手続きを開始する事になりました。文部科学省の監視下で制約の多い現状よりは、同窓会活動を自由にやりやすくなる利点を生かした新たな会としての活動を推進したいと思います。

その後、新春学術講演会が、下記内容で行われました。平成16年の国立大学法人神戸大学への移行以来、急激に変化した医学部内の現状を解りやすく報告してもらいました。

「神戸大学大学院医学研究科の目指すもの」
(高井 義美 医学研究科長、49年卒)



医学研究科・医学部の再編

内科の再編

保健学研究科との連携

内科学講座

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 循環器内科学 | (平田教授) |
| 2. 腎臓内科学 | (深川准教授) |
| 3. 呼吸器内科学 | (西村准教授) |
| 4. 免疫・感染内科学 | (熊谷教授) |
| 5. リウマチ学 | (塩澤保健学研究科教授) |
| 6. 消化器内科学 | (東教授) |
| 7. 糖尿病・代謝・内分泌内科学 | (清野教授) |
| 8. 老年内科学 | (横野教授) |
| 9. 神経内科学 | (戸田教授) |
| 10. 腫瘍内科学 | (南教授) |
| 11. 血液内科学 | (伊藤保健学研究科教授) |
| 12. 総合診療内科学 | (秋田教授) |
| 13. へき地医療学 | (石田准教授) |

寄付講座(分野)の開設

<p>立派治産医学部門 島谷 健一(63)</p>	<p>子ども発達学部門 飯島 一雄(37)</p>
<p>臨床薬理学学部門 島村 隆幸(65)</p>	<p>不整脈生体治療学部門 吉田 明敏(46)</p>
<p>肝臓腫瘍外科分科 (研究特命権付) 藤 裕一(49)</p>	<p>リウマチセンター 堀野 健一(56)</p>
<p>健造・岡島診療 新室部門 大野 良英(41) (2008年開設予定)</p>	<p>内科系腫瘍血管内治療学分野 外科系腫瘍形成外科学分野 美容整形外科部門 (2008年開設予定)</p>

「神戸大学大学院保健学研究科の目指すもの」
(石川 雄一 保健学研究科長、47年卒)

大学との連携事業による
発達支援教室ぽつらっく



託児プログラム 毎月第3土曜日 2~4歳 1回25~30組
学習プログラム

Scheme of Community-based Collaborative Practice



「神戸大学医学部附属病院及び関連病院の
目指すもの」
(杉村 和朗 附属病院長、52年卒)



後半の新任教授紹介は、神戸大学医学部学内の教授 10名、学外の教授 6名の紹介を行いました。神戸大学学内教授は、5名の特命教授の発令が従来の教授制度との違いであり、外部資金を元に制度化された選出です。他大学では、獨協、慶応、大阪医大、愛媛、徳島の医科大学、神戸薬大の教授就任であり、神戸大卒8名と特別会員、賛助会員が紹介されました。人事異動及び栄誉者として、病院長や叙勲受賞者を紹介し、ケータリングによるメリケンパークオリエンタルホテルの高級料理で盛大に懇親会を行いました。

新任教授紹介

懇親会での乾杯

神戸大学大学院医学研究科病理診断学	伊藤智雄	(特別会員)
神戸大学大学院医学研究科膜動態学	匂坂敏朗	(特別会員)
神戸大学大学院医学研究科脂質生化学	竹縄忠臣	(特別会員)
神戸大学大学院医学研究科神経内科学	戸田達史	(特別会員)
神戸大学大学院医学研究科構造生物学	廣明秀一	(特別会員)
神戸大学大学院医学研究科腫瘍内科学	南博信	(特別会員)
神戸大学大学院医学研究科臨床ウイルス学	森康子	(特別会員)
神戸大学大学院医学研究科子ども発育学	飯島一誠	(57年卒)
獨協医科大学医療情報センター	中村哲也	(57年卒)
慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科	鎌江伊三夫	(60年卒)
大阪医科大学リハビリテーション医学	佐浦隆一	(61年卒)
愛媛大学大学院医学系研究科公衆衛生・健康医学	谷川武	(61年卒)
神戸大学医学部附属病院医療情報部	前田英一	(61年卒)
神戸大学大学院保健学研究科細胞機能・構造科学	伊藤光宏	(62年卒)
神戸薬科大学薬学部臨床薬学	江本憲昭	(62年卒)
徳島大学医学部法医学	西村明儒	(賛助会員)

(敬称略)

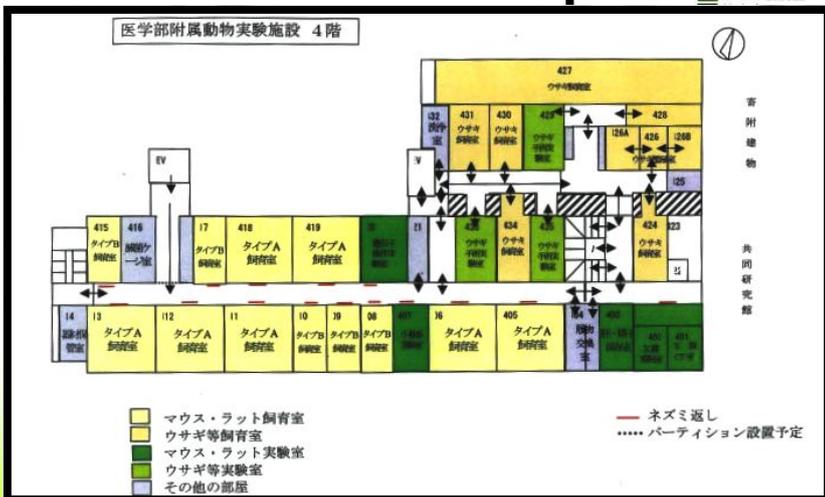
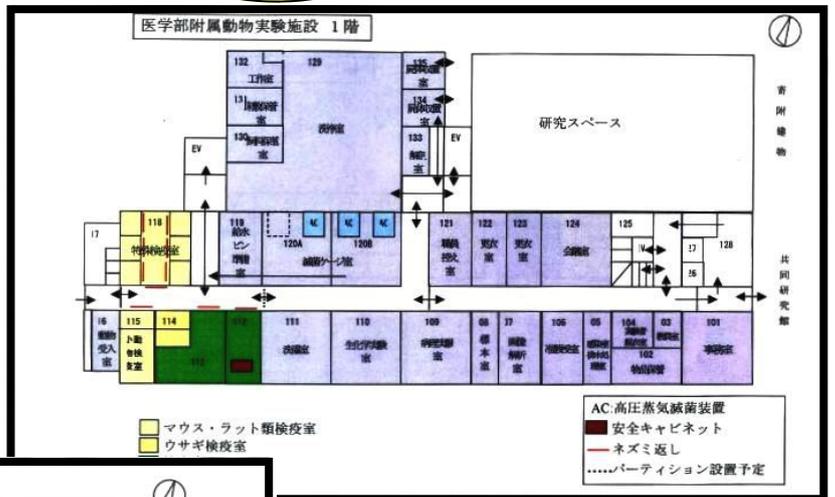
共同研究館と寄付建物の竣工

本工事は、医学部創立60周年記念事業として、また、神戸大学基金による「先端医学・生命科学教育に関する拠点形成」事業として実施されました。古くなった共同研究館の改修（4階建て、約3440m²）と、同窓会や企業から寄付を受けた建物の新築（同、約1000m²）を、一体として整備しました。基礎校舎にあった動物実験施設が移って飼育環境が改善され、教育・研究のスペースも広くなりました。



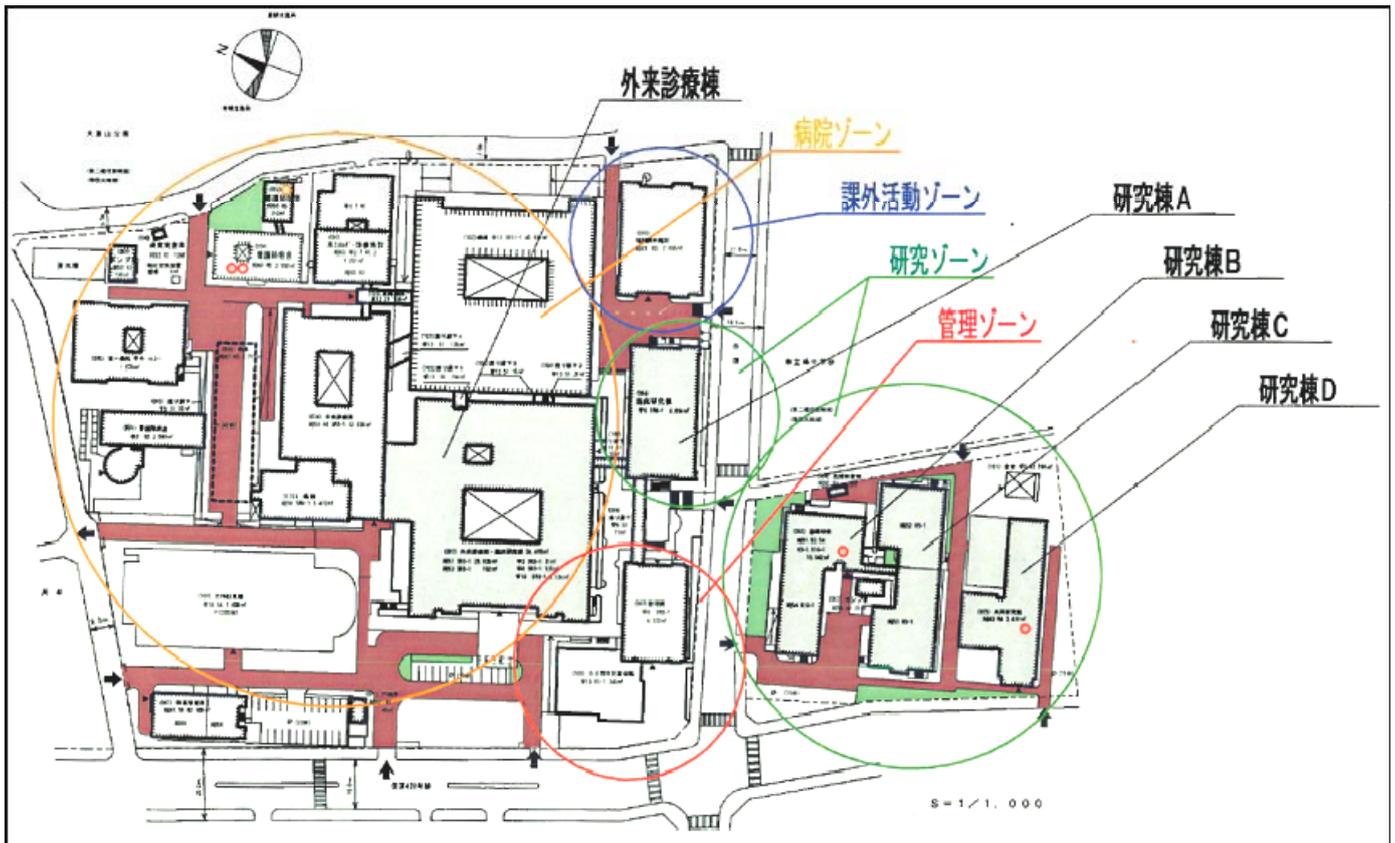
南側の耐震
化工事を行
いました。

寄付建物



神戸大学楠地区各ゾーンと建物名称が変わります。

従来は、東西方向の市道をはさんで北側を臨床医学ゾーン、南側を基礎医学ゾーンとしていました。しかし、大学院医学研究科、医学部医学科と医学部附属病院の整理の中で新たな提案となりました。なかでも、平成13年度より大学院大学となり、最近には大学院組織で基礎臨床融合を実質的に進めることになり、従来の区分が変更になりました。病院ゾーンの中では、外来棟の3～6階の各診療科の居室には一部実験室が作られていましたが、総て居室となりました。立体駐車場は、文部科学省最初のPFI方式（民間活力）で建築されました。管理ゾーン、課外活動ゾーンをはさんで研究棟A～Dに整理されました。臨床研究棟が研究棟A、旧基礎北棟が研究棟Bで、7～10階の実験動物施設が研究室に整備されます。研究棟Cが旧基礎南棟で、研究棟Dが共同研究館と新築された寄附建物です。共同研究館全体と寄附建物の半分が実験動物施設です。学生用のチュートリアル教室、情報センターは当面プレハブ校舎ですが、研究棟Bに整備されます。これで、総ての整備が終了しますが、はとぼっぼ保育所が研究棟Dに隣接して残ります。女性医師などの職場環境の整備に関連した重要な問題であり、早期の解決を期待します。



医学部附属病院腫瘍センターのご紹介

このたび腫瘍センター長を拝命いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。

ご存知のとおり、日本のがん医療では、化学療法、放射線治療の体制整備が遅れています。がん薬物療法が臓器別診療体系の中で行われ、幅広い腫瘍の薬物療法に対応できる専門医がほとんどいないことが化学療法の遅れの原因です。この状況を改善するために、2007年4月1日に「がん対策基本法」が施行され、神戸大学医学部附属病院は「がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。その際、臓器横断的ながん薬物療法に対応する「腫瘍センター」が必要で、神戸大学医学部附属病院では2006年11月に腫瘍センターの内規を整備しました。2007年6月に腫瘍内科が新設され、今回、杉村和朗院長から私がセンター長を引き継がせていただきました。

適切ながん化学療法を実施するためには、第三者がその内容を審査することが重要です。この「レジメン審査」を最重要課題ととらえ、昨年の暮れに内規の整備を行い、本年1月より関係診療科のご協力をいただいて「がん薬物療法審査委員会」を月2回開催し、レジメンの審査を行っています。本年3月のがん診療連携拠点病院の指定要件の改定でこのレジメ



腫瘍センター長
腫瘍内科学・特命教授
南 博信

ン審査システムが必須となり、早い段階から活動を開始してよかったと安堵しています。今後、神戸大学病院では入院・外来を問わず審査、承認を受けたがん薬物療法のみが実施可能となります。

一人のがん患者さんの治療方針を診療科を越えて決定するTumor Board、がん登録、相談支援システムなど、まだまだ整備すべきことが山積していますが、皆様のご理解とご協力をいただきながら、ひとつずつ解決していきたいと思ひます。また、大学院のコースとしてがんプロフェッショナル養成プランにおいて、専門医の育成を行っています。我こそはと思われる方はご連絡ください。

今後、がん医療において薬物療法の重要性は増し、専門性も高まります。薬物療法が必要な患者さん（術後再発も問わず）を紹介頂ければ、対応させていただきます。Second opinionにも対応しています。

神戸神緑会 ～役員改選にて中野康治氏(S52年)を新会長に選出

会長就任あいさつ

会長 中野 康治 (S52年卒)

本年9月20日生田神社会館にて開催された神戸神緑会総会にて、前・彦坂会長のあと会長をさせて頂くことになりました中野でございます。昭和63年に須磨区で泌尿器科クリニックを開業し、平成13年より須磨区の支部長としております。

小生の様な若輩が、多くの諸先輩方のいる神戸神緑会の運営をやっているか不安で一杯ですが、副会長に一年先輩の江草康夫先生(垂水区)、同期の岡田泰長先生(長田区)又、会計には経験豊富な49年卒の松本正道先生(北区)に就任して頂き、皆様の御助力にて何とか使命を果たしたいと考えております。幸い、前田盛理事長はラグビー部の先輩であり、同期には現大学病院長の杉村和朗先生や須磨区の長谷川修会会長がいますので、法人神緑会、大学、市医師会等とも上手く連携して行きたいと思っております。

大阪生まれ、大阪育ちの私が神戸大学で学ぶ(学生時代はラグビーばかりしていましたが…)、大学病院、神戸労災病院、赤穂市民病院勤務を経て、須磨・板宿で何とか泌尿器科医院を経営していけるのも、神緑会会員であるからと感謝しております。しかし、勤務医時代の神緑会に対するイメージは余り良い物とは言えませんでした。特に同窓会神緑会から法人神緑会が設立される経緯が、当時勤務医である我々や後輩の先生方には不明瞭であり、開業の先輩方が何かゴチャゴチャやっているな位の印象でした。久し振りに会う同窓会は楽しいけれど、法人神緑会はいったい何をしているのか?と考えている若い神緑会が多いのではないのでしょうか。今後このギャップを少しでも埋めていく事が我々新執行部の役割であり、それが神緑会の発展につながるものと考えております。各支部の先生方も支部総会等に新規開業の後輩や勤務医の先生方を積極的に招待して頂き、この神緑会をアピールして頂く様お願いして、私のご挨拶とさせていただきます。

平成20年12月20日 神緑会理事会・評議員会 忘年会報告

平成20年度の最後を飾る忘年会は、長年の懸案であった若手の神緑会の会員が神緑会の活動について、どんな意見を持っているか、お聞きするための会としようとなり、平成7年、9、10年、13年～15年卒のクラス代表に出席していただきました。

「神緑会の支援の実感がない。若い学年に神緑会の活動が伝わってなくて、病院では、神戸大学卒業である事は、ほとんど意識しない。学生時代のクラブ活動、文化祭を援助してくれるとありがたい。年会費を払う気になる。」「ありがたいが無く、年会費を払う気持ちになれない。」「会の活動がオープンでなく、困った時に頼りになる窓口を作って欲しい。不安定にな

ると神緑会は重要である。」「冊子体での情報発信ではダメで、webサイトでの更新が重要です。見栄えが悪くても早く伝わる事が重要です。」「学術集会など、酒を飲みながら話し合う事が大切で、交流が少ない。」「診療科単位の同門会があり、神緑会が無くても特に困らない。」

その他、いろいろな意見が出され、これらに対して、ご出席の先輩達からは、それぞれの経験などを通じて、同窓会活動の重要性が述べられました。このような活動を通じて、若い人達の考えを吸収しながら、活動を充実したいと考えました。

神緑会学年委員より一言

平成14年卒学年代表 藤島佳未 (旧姓毛利)



私は平成14年に卒業後、当時の第二内科に入局して、1年間は神戸大学で研修、その後2年間は西脇市立西脇病院で内科研修をいたしました。4年目は消化器内科医員として神戸大学に戻り、その中で抗癌剤治療に興味を抱き、1年間国立がんセンター東病院内視鏡部で研修生として勤務しました。平成19年に消化器内科の大学院に入学し、現在2年生です。生体内での発癌作用を中心に研究を行っています。クラス会は今年の3月に卒業して初めて行われ、40人ぐらいが参加しました。私達の学年は医局に入らなかった人や他大学の医局に入った人も少なくなく、精力的に頑張っている同級生に刺激を受け、今後定期的に開催できればと思っています。



平成20年卒評議員 柴田 智久



平成20年卒の評議員を務めさせていただきます柴田智久と申します。現在、神戸大学医学部附属病院の一年目研修医として、日々忙しくも充実した毎日を過ごしております。覚えるべき仕事や学ぶべきことが山のようにあり、思うように時間もとれない状態です。そのため神緑会の会合などの行事にも参加できないことが多く、同級生達との集まりの機会を持つこともままなりません。しかし、同級生の皆も同じようにがんばっていると、心の支えになります。全国にいらっしゃる神戸大学出身の先生方、まだまだ未熟者ではありますが、今後とも温かい目でご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医学部クラブ紹介

卓球部

卓球部は、月・木・土曜日に活動をしています。
兵庫医科大学や大阪医科大学・滋賀医科大学などとの交流戦にくわえ、京都大学・大阪大学・京都府立医科大学との京阪神戦、関西医科大学・近畿大学・兵庫医科大学との四校戦などのように、幅広く交流戦を行っています。
大会にも、西医体をはじめ、春と秋には近畿大会、春の西医歯薬大会、夏の全医歯薬大会と盛んに参加しています。
初心者から始めた部員がほとんどなので、のんびりと活動しておりますが、田中祐貴などは近畿で3位になるほどの実力を発揮したりと、自分に合わせた活動ができるのが、卓球部の魅力です。
今まで200名を超えるOBの先生が卒業され、その御支援の下活動させていただいておりますので、ここにOBの先生方に改めて感謝の意を表させていただきます。

硬式テニス部

こんにちは。私達医硬庭は1学年10人程度の総勢約50人で活動している医学科最大の部活です。私達の部にはなんとなく、という気持ちからテニスをやり始めた人から中高から本格的にテニスに青春をぶつけてきた、という人まで様々な仲間たちがいます。時には真剣に、時には騒いだりと、部活の枠を超えてみんなで楽しく過ごしています。



メンバー紹介

6年生：椋尾和洋 田中達也 楊培世
5年生：高橋祐一 宮崎裕貴子
4年生：田中祐貴 高橋尚子 花木豊
是沢正晴
3年生：安部祐子 加来佐和子 高吉倫史
板東正貴 松下萌未 三木由香里
脇田直人
2年生：中村俊宏 森 達男 宮田龍臣
矢部慎二 吉田知宏 阪上海央
林良太
1年生：小濱拓也 園田祐介 中屋雄一郎
阪口愛祐 三木美香 吉開友羽子



さて、そんな私達の活動ですが基本的には火曜日、土曜日の週2回行っております。男子は春に合宿があり、また大会等にも多数出場させていただいております。去年は女子が近畿大会で見事準優勝に輝きました。先輩が真剣に試合をする姿をみて感動できたり、仲間と一緒に喜んだり泣いたり・・・、そんな様々な経験を通して自分の成長を実感し、充実した生活を送る仲間たちがたくさんいます。入部したらたくさんの出会いがあなたを待っているはず。幹部を始めテニス部員全員が、よりいっそうの熱意を持ち、充実した時間を過ごせるようなテニスをできるよう日々頑張っております。こんな私達をどうぞよろしくお祈りします。またOBの先生方には日頃からの応援に感謝しますとともにこれからもこの医硬庭を暖かく見守ってくださいますようどうぞよろしくお祈りいたします。

ご注意ください!

詐欺まがいの電話に御注意ください!!

最近、神戸大学医学部の同窓生の名を語った詐欺まがいの電話が同窓会の先生方の自宅にかかってきています。これは、先生方の携帯電話の番号を聞き出すことが目的のようで、おそらく、携帯電話番号を業者に売り渡そうとしているものと思われます。我々が把握しているだけで、平成4年、6年、8年、9年、10年卒の先生方には、既にこのような電話があったとのこと。具体的な手口としては、卒業生名簿から、学年代表や神縁会の役員の先生の名前を語り、「〇月〇日に同窓会をするので携帯電話の番号を教えてください。詳細は後で電話するから。」と番号を聞き出したり、自宅連絡先の不明な先生に対しては、番号のわかっている別の先生に連絡を取らせ、「同窓会を行う予定です。同窓会の詳細については、この電話番号にかけてもらえれば、詳しく話しします。」と、偽の同窓会員になりすました人物の携帯電話に電話を入れさせ、発信者通知から、携帯番号を盗み取りしようとしています。

平成20年物故会員一覧

1月1日	砂原良三	(28)	6月2日	石川秀夫	(29)
1月8日	諫山義正	(名誉)	6月9日	高野申五	(33)
1月9日	桜井隆	(26)	6月17日	武田蒔雄	(25)
1月23日	松岡弘	(26)	7月16日	皆川正雄	(賛助)
2月5日	坂井節夫	(37)	7月23日	林伸夫	(32)
2月9日	武田創	(名誉)	8月26日	柿沼祐一	(29)
2月11日	児島愈	(35)	9月2日	寺西慶郎	(38)
2月21日	今井幸夫	(26)	9月26日	関谷善文	(57)
3月4日	内藤穆	(29)	10月9日	栗本洋子	(38)
3月17日	内田薫平	(37)	11月4日	恒川洋	(26)
3月22日	青木繁	(32)	11月29日	隈寛二	(26)
3月27日	林新樹	(29)	12月10日	木村省吾	(26)
5月1日	島津幸作	(28)	12月12日	永安朋子	(02)
5月3日	安水誠	(29)	12月13日	渡辺嘉雄	(名誉)

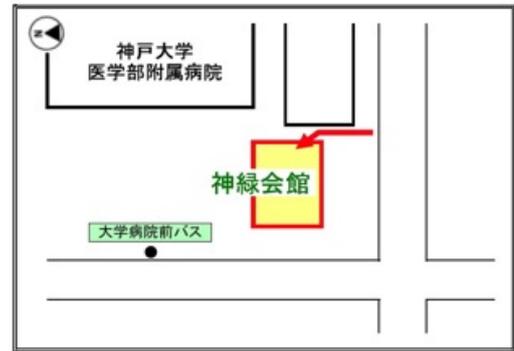




神緑会会報

神戸市中央区楠町7丁目5-1
社団法人・神緑会連絡事務所
電話 078(361)0616
Fax 078(361)0617
E-mail shinryok@med.kobe-u.ac.jp

ホームページも御覧ください。
<http://www.shinryokukai.com>



- 神戸市営地下鉄大倉山駅より徒歩5分
- JR神戸駅及び高速神戸駅より徒歩15分
- JR神戸駅より神戸市バス9系統または110系統に乗車、大学病院前下車
- JR神戸駅前タクシー約5分
- JR新神戸駅前よりタクシー約10分

編集後記



この度、皆様のご理解、ご協力によって神緑会会報をニュースレター形式で発行する運びとなりました。本ニュースレターは学術誌と違い、神緑会に親しみを感じていただき、会員の皆様にできるだけ神緑会活動に参加していただけるよう、身近で最新の話題を提供できる雑誌にしたいと考えております。現在、このニュースレターの編集は数名だけで行っておりますが、医学部の学生有志にも、企

画・編集に協力していただく予定にしております。多くの方に雑誌編集に関わっていただくことで、さまざまの話題を提供できる読み物にできます。本ニュースレター作成に協力いただける方を常時募集しておりますので、神緑会にご連絡お待ちしております。今後のニュースレターにご期待ください。

編集委員：
吉田 優
小林和幸
篠原正和



神緑会館